

ミヤママムシグサ *Arisaema pseudoangustatum* Seriz.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。山地性の植物で、愛知県は分布域の南西限にあたる。県内では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は扁球形、上部から多くの根を出す。葉身のある葉は 2 個、第 1 葉の葉鞘は長さ 35~80cm、葉身は鳥足状に分かれ、葉軸は発達するがマムシグサ群としては比較的短く、小葉は 9~15 個、狭長楕円形から披針形、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁または歯状の細鋸歯がある。花期は 5~6 月、仏炎苞は緑色で、葉より遅れて開き、葉よりやや高い位置につき、筒部は長さ 5.5~7.5cm、口辺はやや広く開出し、舷部は卵形、長さ 7~10cm、先端は鋭尖頭となる。花序は肉穂状、偽雌雄異株で、小型の個体は雄花、大型の個体は雌花をつけ、付属体は細い棒状、先端は直径 1.5~5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (村松正雄 15276, 1994-6-5)。  
西：25 豊田北西部 (猿投山, 芹沢 36656, 1983-5-5)でも 1 回採集されたことがあるが、ここではその後確認できない。

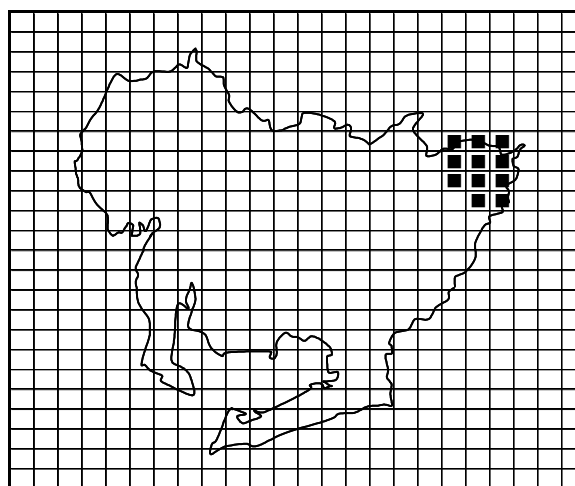
【国内の分布】

本州 (中部地方太平洋側の深山) に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

豊根でも個体数は極めて少なく、偶然行き当たるとい程度の頻度にすぎない。牧場等として開発される前は、もう少し多かったのではないと思われる。

【保全上の留意点】

茶臼山周辺は、愛知県では温帯性植物が集中して生育しており、生物多様性を保全する上で極めて重要な場所である。自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、現在以上の開発は避けるべきである。

【特記事項】

この群の中では最も深山性の植物である。

【関連文献】

平新版 1 p.104.  
芹沢俊介. 2013. 日本産マムシグサ群の分類(1)ミヤママムシグサ. シデコブシ 2:99-109.